

令和2年度 年間指導計画を見直す際の参考資料

小学校 第2学年 「国語（光村図書）」

220時間（70%）

週	重点に置く指導事項	単元名	教材名	時間数	留意点
二上					
1	Bア 知・技(1)ア	ことばのじゅんじゆん びうんどう	じゅんばんに ならぼう つづけて みよう	1	・「じゅんばんにならぼう」は状況によって導入で扱うこととする ・一言日記を書くことを中心の活動とする
	Cイ 知・技(1)ク 知・技(3)エ		1 おほなしを 読み、やくにわ かれて音読しよ う	ふきのとう	8
2	知・技(1)ア	思い出して書こ う	図書館たんけん	1	・学校図書館等を活用し、本の並び方について理解させる
	Bアウ 知・技(1)ア		春がいっぱい	-	・P.90「夏がいっぱい」で扱う
	Aエ 知・技(1)イ	思い出しで書こ う	きょうの できごと	4	・今日の出来事を思い出して書くことを中心の活動とする (参考：県教委オンラインサポート授業)
	知・技(3)ア		だいたいなことを おとさずに、 話したり聞いたり しよう	ともだちを さがそう	3
	書写		いなばの 白うさぎ	1	・教師が読み聞かせを行う
3	Cアウ 知・技(2)ア	2 じゅんじよ に気をつけて読 もう	たんぼぼの ちえ 【じょうほう】じゅんじよ	9	・「【じょうほう】じゅんじよ」を導入で扱い、時間的な順序や事柄の順序を考えながら内容の大体を捉えることを中心の活動とする
4	Bアイ 知・技(1)オ	ていねいにかん さつして、きろ くしよう	かんさつ名人に なるう	10	・教師側が共通して観察するものを提示し、「見る、触る、においをかぐ」といった視点を確認し、観察したことを書くことを中心の活動とする（参考：県教委オンラインサポート授業）
	知・技(1)エ		同じ ぶぶんを もつ かん字	1	・練習問題は家庭での課題とし、後日、確認を行う
	知・技(1)ア		うれしい ことば	1	・日常生活を思い出し、うれしい言葉を出し合い、たくさん言葉があることに気付かせる
	知・技(1)エ		かん字のひろば①	-	・①②③をまとめて扱う
5	Cエ 知・技(1)オ	3 お話を読ん で、しようかい しよう	スイミー	8	・様子が分かる言葉に着目させ、登場人物の行動を具体的に想像することを中心の活動とする
	知・技(1)ウ		かたかなのひろば	1	・片仮名で書く語の種類を理解させる
6	Bイオ 知・技(1)ク	組み立てを考 えて書き、知らせ よう	【じょうほう】メモを とる とき こんな もの、見つけたよ	11	・メモのとり方について理解させ、町を探検するなどして、見つけたものをメモする際に役立たせる ・書いた文章をみんなで読み合い、感想を伝え合う活動を取り入れる
7	Aアウ 知・技(1)ア	しつもんしあ つて、くわしく考 えよう	あつたらしいな、こんなもの	7	・相手の考えを引き出す質問の方法を理解させる
	知・技(1)ア		夏が いっぱい	1	・春や夏についてイメージした言葉をカードに書き、語彙を増やしていく
8	Cカ 知・技(3)エ	お気に入りの本をしようかいしよう ミリーのすてきなぼうし	お気に入りの本をしようかいしよう ミリーのすてきなぼうし	5	・お気に入りの本を友達に紹介することを中心の活動とする ・公立図書館と連携し、教室に本を用意して選ばせてもよい
	書写		水筆で書く	2	・水書用筆を使った点画の運筆を意識させる
			かたかな	1	・点画の方向を意識させる
	知・技(1)ク	しをたのしもう たいわのれん しゅう	雨のうた	1	・言葉の響きを味わいながら音読することを中心の活動とする
	Aイエ 知・技(2)ア		ことばでみちあんない	3	・相手に伝わるように説明の順序を工夫することに重点を置いて指導する
	知・技(1)エ		かん字のひろば②	-	・①②③をまとめて扱う
9	Cアオ 知・技(2)ア	4 読んで考 えたことを話そう	どうぶつ園のじゅうい	10	・驚きや疑問など、自分自身の体験と照らし合わせて感想をもたせることを中心の活動とする
	知・技(3)イ		ことばあそびをしよう	1	・声に出すことを楽しませる
10	知・技(1)オ		なかまのことばとかん字	2	・練習問題は家庭での課題とし、後日、確認を行う
	知・技(1)エ		かん字のひろば③	1	・本時で①②③をまとめて扱う
	書写		書き順	2	・正しい筆順で書くことと字形が整えやすいことを意識させる
			点画の方こう	4	・点画の方向を意識させる
二下					
11	Cエカ 知・技(1)ク 知・技(1)カ	1 そうぞうし たことを、音読 げきであらわそ う	お手紙	10	・音読の仕方をおさえた上で、想像したことを音読劇であらわすことを中心の活動とする
	知・技(1)エ		主語と述語に気をつけよう	1	・主語と述語の働きを理解させる (参考：県教委オンラインサポート授業)
			かん字の読み方	2	・練習問題は家庭での課題とし、後日、確認を行う
12	知・技(1)ア	みんなで話を つなげよう	秋がいっぱい	1	・「秋」についてイメージした言葉をカードに書き、語彙を増やしていく
	Aアオ 知・技(2)ア		そうだんにのってください	8	・相手の発言を受けて、「質問する、共感を示す、感想を言う、もういちど確かめる」など話をつなげることに重点をおいて指導する

13	Cア 知・技(2)ア	2 せつめいのしかたに気をつけて読み、それをいかして書こう	馬のおもちやの作り方	7	・作り方の順序に着目させ、説明の仕方の工夫を見つけることを中心の活動とする	
	Bイウ		おもちやの作り方をせつめいしよう	7	・説明書の特徴をおさえ、内容のまとまりが分かるように工夫して説明書を書くことを中心の活動とする	
	14	知・技(1)ウ	聞いて楽しもう	かたかなで書くことば	2	・練習問題は家庭での課題とし、後日、確認を行う
		知・技(3)ア		せかいーの話	1	・教師が読み聞かせを行う
		知・技(1)エ		かん字の広場④	-	・④⑤をまとめて扱う
	書写		画のつき方や交わり方/文字の中心	2	・画のつき方や交わり方、文字の中心を意識させる	
15	Cエオ 知・技(1)オ	3 自分とくらべて、かんそうを書こう	わたしはおねえさん	9	・登場人物の行動を具体的に想像し、自分の体験と結びつけて感想をもつことを中心の活動とする	
	16	Bイエ 知・技(2)ア	まとまりに分けて、お話を書こう	お話のさくしゃになろう	10	・書こうとした内容が伝わるように「はじめ・中・終わり」や「時間の順序」を意識して書くことに重点を置いて指導する
		知・技(1)ア		冬がいっぱい	1	・「冬」についてイメージした言葉をカードに書き、語彙を増やしていく
	Cカ 知・技(1)ク	詩の楽しみ方を見つけよう	ねこのこ おとのはなびら はんたいことば	1	・3つの詩から一つ選び、様子を思い浮かべたり、言葉の響きを楽しんだりしながら音読させる	
	知・技(1)オ		にたいみのことば、はんたいのいみ のことば	1	・いろいろな言葉に触れさせ、語彙を豊かにする	
知・技(1)エ		かん字の広場⑤	1	・本時で④⑤をまとめて扱う		
	書写		書きぞめ	2	・書き上げた作品は、観点を定めて、互いの作品を評価し合う時間をとる	
17	Cウカ 知・技(3)エ	4 だいじなことばに気をつけて読み、分かったことを知らせよう	おにごっこ 【じょうほう】本でのしらべ方	11	・本文中の重要な語や文について考えることを中心の活動とする ・本の調べ方をおさえ、学校図書館で遊びについて伝えている本を読ませる	
	知・技(1)ア	ことばについて考えよう	ようすをあらわすことば	3	・様子を表す言葉を使うことのよさを理解させる	
	Bアオ 知・技(1)オ	詩を作ろう	見たこと、かんじたこと	5	・経験したことから書くことを見つけさせ、様子や気持ちがよく分かる詩を書くことを中心の活動とする	
	19	A 知・技(1)イ	つたえたいことをきめて、はっぴょうしよう	楽しかったよ、2年生	8	・1年間の「話すこと・聞くこと」のまとめとし、児童の実態に合わせて、補強が必要と思われる指導事項に重点を置いて指導する
		知・技(1)エ		カンジーはかせの大はつめい	1	・授業後も継続的にプリントなどで漢字学習に取り組ませる
	知・技(3)イ		ことばを楽しもう	1	・教師が回文を提示し、言葉遊びを行う	
	書写		まとめ	2	・2年生のまとめとして、学習したことを生かして自分の名前などを書かせる	
20	C 知・技(1)オ	5 読んで、かんじたことをつたえ合おう	スーホの白い馬	12	・1年間の「読むこと」のまとめとし、児童の実態に合わせて、補強が必要と思われる指導事項に重点を置いて指導する	
21	B 知・技(1)キ	思いをつたえる手紙を書こう	すてきなところをつたえよう	11	・1年間の「書くこと」のまとめとし、児童の実態に合わせて、補強が必要と思われる指導事項に重点を置いて指導する	

※時間数の精選方法（例）

○3領域のどの指導事項に重点を置くのかを明確にする。

・複数の指導事項を万遍なく指導するのではなく、この教材では、どのような力（指導事項）を身につけさせるのかを明確にすることで、授業時間の削減が可能となります。例えば、教材「こんなもの、見つけたよ」では、指導事項ア・イの「必要な事柄を集めることや簡単な構成を考えること」を中心に指導し、教材「おもちゃの作り方をせつめいしよう」では、指導事項ウの、「内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること」を中心に指導を行います。「読むこと」、「話すこと・聞くこと」も同様です。

○家庭での課題として取り組ませることで、学習を補う。

・言葉に関する学習に出てくる設問などは家庭での課題として取り組ませ、後日、確認を行います。「漢字の広場」については既習内容があるので、同じく家庭での課題として取り組ませたり、①②③、④⑤をそれぞれ1時間としてまとめて扱っています。

○読書単元は学校図書館を活用し、言語活動と結びつけ、読書生活を豊かにする

・読書教材については、指導事項が【知識及び技能】（3）「我が国の言語文化に関する事項 エ」になりますので、詳細な読みは行わないのが一般的です。言語活動例を参考にして、読書と言語活動を結びつけ、3領域の資質・能力を向上させるのが望ましいとされます。教材「図書館たんけん」「お気に入りの本をしょうかいしよう」「本でのしらべ方」の学習から、学校図書館や地域の施設を活用し、家庭での読書につなげることも可能です。

○書写は取り立てた指導だけではなく、「書くこと」と関連させた指導も行う

・書写の指導に関しては、小学校2学年では年間30時間程度行うものとありますが、光村図書では、手紙を書いたり、観察文を書いたりする「書くこと」の領域の学習において、例えば原稿用紙やノートの書き方の指導の中で、字形や筆順、文字の大きさといった指導事項をおさえることが可能です。（本資料では、書写に取り立てた指導を15時間（50%）で作成しています）

○感染症予防対策を踏まえた学習活動の工夫を行う

・教材文等の音読は、マスクをつけることや大きな声を出さないことを指示します。ペアや少人数での話し合い活動も、マスクや声の大きさなどを配慮して行いますが、教室の状況や児童の実態によっては当分の間控えた方がよいでしょう。また、スピーチやプレゼンテーションなど、相手に向けて話す活動は、一定の距離をとって行います。インタビューなどのフィールドワークは、書くことの「情報の収集」と関連させるなど、単元の組み替えを行います。